

令和3年度 学校評価の結果と分析及び課題

I 調査の概要

	生徒	保護者	教職員
回答者数	658	648	61
回答率	99.5%	98.0%	100%
調査日	令和3年11月19日	令和3年11月11日～18日	令和3年11月15日～19日

II 本年度の重点目標

1. 確かな学力と主体的に考え行動できる力の育成

- (1) 基礎学力の定着と学習意欲の向上への取組
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

【アンケート結果の分析及び課題】

今年度も、生徒の活動はさまざまな制約の下に行われたが、落ち着いた様子で学校生活に取り組み、授業時間の確保に努めることができた。「学力向上のために努力している」とする生徒は昨年より約5%増えた。定期試験や資格・検定試験前の取り組み状況を見ると、何をやればいいのか、目的と手段がはっきりしていれば学習に取り組める傾向にある生徒が多いと考えられる。また、「専門性を深めている」や「検定や資格取得に取り組んでいる」とする生徒も増加している。いずれも基礎学力が要求されるため、効果的な家庭学習・自主学習の方法と習慣を身につけさせる工夫・指導を考えていきたい。

2. ルール・マナーを守る態度と自己指導能力の育成

- (1) あいさつ、身だしなみ、言葉遣い、時間厳守の指導の徹底
- (2) 交通ルールへの遵守と交通安全指導の徹底
- (3) 自己有用感に裏付けられた自尊感情の育成
- (4) 自他を敬愛する心、奉仕する心の育成

【アンケート結果の分析及び課題】

積極的なあいさつ、きちんとした服装頭髪、交通ルールを多くの生徒が守っている。しかし、これらに対する保護者アンケート結果は低い数値となっている。一部であるが、意識の低い生徒も見られる。今後、指導の徹底や工夫改善が必要である。また、いじめや生徒の学校不適応を早期に発見し対応するため、教育相談機能の充実を推進した。引き続き教職員全員の意識と保護者や外部機関との連携を図っていききたい。生徒それぞれに寄り添い、自己肯定感を向上させる取り組みを根気よく継続できるよう、情報交換や話し合い、研修等を実施することが必要である。

3. 自己の在り方生き方を考えるキャリア教育の実践

- (1) 年間を通した体系的なキャリア教育の実践
- (2) 専門性の深化と進路意識・目的意識の向上
- (3) 検定や資格取得等とおしての自己肯定感の高揚

【アンケート結果の分析及び課題】

管内企業の求人数が増加傾向にあったこともあり、生徒の希望と概ねマッチングできた。年々就職希望者が減少傾向にあるため、職業（地元企業）の理解を深める指導を実施し、働くことに対する意識改革を図りたい。進学においても早い段階で希望する学校に全員が合格することができた。学年が上がるごとに進路への意識が高まっているが、全体では40%の生徒が「進路行事」に積極的に参加していないと回答している。早い段階から進路意識を向上させるため、生徒の実態に合わせて進路行事の精選・補充・見直しを行い、3年間を見通したキャリア教育をさらに充実させていきたい。

4. 保護者や地域の信頼に応える学校づくりと特別活動の活性化

- (1) 地域連携事業等による保護者や地域の信頼に応える学校づくり
- (2) 逞しい心と体、豊かな人間性の涵養
- (3) 危機管理意識の高揚

【アンケート結果の分析及び課題】

今年度も感染防止対策に努めた学校行事の検討・延期・中止等を行ってきた。今後も感染症対策を講じながら、学校行事をできる限り実施できる方向で検討し、安全に実施したい。また、コロナ禍であっても、ICTの活用等の工夫により、地域や関係機関との協力体制を整え、生徒が主体的に活動できる教育活動を行いたい。部活動への加入率の減少、大会や発表会へのモチベーション維持が問題である。学校全体として部活動の魅力を高めるよう、活動内容や時間の見直しなども含めて検討していくことが必要と考える。また、本校ホームページに定期的に記事を掲載することで、開かれた学校づくりを進め、保護者や地域の信頼に応える学校としていきたい。